キミガヨラン

NAO Letter

NAO税理士法人

編集発行人
代表社員
髙井直樹
〒500-8335
岐阜市三歳町4－2－10
TEL 058(253)5411㈹
FAX 058(253)6957

◆ 11月の税務と労務

国　税／10月分源泉所得税の納付　11月10日
国　税／所得税予定納税額の減額承認申請　11月15日
国　税／所得税予定納税額第2期分の納付　11月30日
国　税／9月決算法人の確定申告（法人税・消費税等）　11月30日
国　税／12月、3月、6月決算法人の消費税等の中間申告（年3回の場合）　11月30日
国　税／3月決算法人の中間申告　11月30日
国　税／個人事業者の消費税等の中間申告（年3回の場合）　11月30日
地方税／個人事業税第2期分の納付　都道府県の条例で定める日

11月 （霜月）NOVEMBER

3日・文化の日　23日・勤労感謝の日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

※税を考える週間　11月11日～11月17日

ワンポイント

郵便料金の改定　燃料価格をはじめとする物価や人件費などのコスト上昇を受けて10月から郵便物の特殊取扱料金が値上げされました。主なものは、一般書留料及び現金書留料が435円→480円、簡易書留料が320円→350円、内容証明料（謄本1枚）が440円→480円。「ゆうパック」の基本運賃も平均で約1割値上げされています。

GX（グリーントランスフォーメーション）

GXとは

GX（グリーントランスフォーメーション）とは、経済を成長させる活動と環境保護の活動を両立して行うことで、「温室効果ガス」の排出をゼロにしていくための取り組みのことです。

経済産業省は、2050年までに温室効果ガス排出量をゼロにする「カーボンニュートラル」を目標に設定しており、目標達成のための成長戦略としてGXを提唱しています。

温室効果ガスの限界

温室効果ガスとは、太陽光を貯めて地表の温度を一定度数に保つ働きをする物質のことで、代表的なものが二酸化炭素です。二酸化炭素は、石炭や石油、天然ガス、ガソリンを始めとした「化石燃料」を燃やすことで発生します。現在、人間が生活するための電気などを作り出すために多くの化石燃料が使用されており、それによって多くの二酸化炭素が排出されることになります。

その一方で、二酸化炭素を吸収してくれるはずの森林が、燃料として使用したり、農地への転換、土地開発などの理由で伐採されており、多量の二酸化炭素を吸収しきれず地表に残ってしまうという問題が発生しています。また、ロシアのウクライナ侵攻によりエネルギー価格の上昇や、エネルギー自体の不足という状況に陥ったこともあり、化石燃料に頼らず天然エネルギーを活用する流れが加速しています。

GXリーグの基本構想

GXを実現していくためには、カーボンニュートラルへ移行していくための取り組みを行い、国際社会で勝負ができるような企業の協力が必要不可欠です。

そこで、GXに対して積極的な姿勢で取り組みを実施する複数企業が利害関係にかかわらず協力して経済社会システムを変革させ、新たな市場を作り上げるための場として、経済産業省が「GXリーグ」を設立しました。

GXリーグは、温室効果ガス排出量の削減に貢献して外部から一定の評価を得られることで、成長をしていくことができる社会づくりを目指しています。コンセプトは、業種を超えた「対話」、国と企業がともに市場ルールを作り上げる「共創」、GX投資や温室効果ガス削減を明らかにする「実践」の3つです。

現在、世界中でGXに取り組む動きが加速していますが、ただ単に欧州のGX基準に従うだけではなく、削減貢献の効果がある製品を売り出すなどの方法で日本が世界に向けて新たな市場を作り、牽引していくことを目標にしています。そのために、GXリーグではシンポジウムや「GXスタジオ」という参画企業の交流会を実施しながら活動を続けています。

GX実践のメリット

GXに取り組むことは、環境改善のみならず企業にさまざまなメリットがあります。例えば、太陽や風の力などを利用した再生可能エネルギーを利用することで、温室効果ガスの排出を削減し、エネルギーの自給率を上げることができます。

再生可能エネルギーは自然の産物であるため、利用したら減ってしまう化石燃料とは異なり、永久に使い続けることができるというメリットがあります。再生可能エネルギーを導入するための初期費用は掛かるものの、普及を促進する制度も続々と打ち出されていることから、将来的にはコスト削減に繋がることが期待されています。

また、GXに取り組む企業として名が知られることで、企業のイメージアップに繋がるという効果も期待できます。具体的には、新たな顧客の獲得や採用活動の際に優秀な人材を得られる可能性が高まるという点が主なメリットとして挙げられます。

会社には不可欠！「バックオフィス」とは

バックオフィスとは

バックオフィスとは、会社の前線部隊となる営業マンなどを支えるポジションにある部門のことです。

会社は「フロントオフィス」と「バックオフィス」の2種に大きく分類することができます。

フロントオフィスとは、会社を代表する者として直接顧客と接触をする業務のことです。代表的な職種として、営業職や受付業務、電話オペレーター、商品企画、販売促進部門などが挙げられます。いずれもクライアントと直接対峙をし、商品を売り込んだり説明をしたりし、自社のサービスを気に入ってもらうための対応を行うことで、売上をあげていくという、会社の経営にかかわる重要な職種になります。

一方、バックオフィスとは、直接顧客と接触をしない、いわばサポート的な立場で支える業務で、代表的な職種として、経理部や人事部、総務部、財務部、システム管理部などが挙げられます。フロントオフィスとは異なり仕事内容が直接会社の売上に響くものではないものの、会社がスムーズに活動していくために必要なものとして、こちらも非常に重要な職種になります。

バックオフィスの役割

バックオフィスは、表に出ない業種でありながら、会社の運営においては欠かせない存在です。

フロントオフィス業務である営業部門が新規顧客を獲得した例で見てみます。会社にとっては重要なクライアントになりますが、獲得しただけでは売り上げには繋がりません。そこで、バックオフィス業務となる法務部が契約書を作成し、その後は提供したサービスを基に経理部門が請求書を作成します。その後、入金のあった売上額について決算処理を行うことで、会社の利益として組み込まれる流れになります。

このように、バックオフィスは会社にとって欠かせない存在であり、バックオフィスがあるからこそ、フロントオフィスは安心して業務に集中することができ、会社の生産性を上げることへと繋がるのです。

バックオフィスのモチベーション対策

バックオフィス業務は、表立って動いているフロントオフィス業務と比較すると、評価が見えにくいという特徴があります。これは、常に現場に立ち顧客の対応に追われるフロントオフィス業務とは異なり、時期ごとに行うルーチンワークをこなすことが多いという点があります。

また、バックオフィス業務は、新規顧客の獲得や新規事業の立ち上げなどを行う部門ではないため、「業務の効率を上げる」、「ミスをしないような対策を取る」など、評価基準が「減点方式」であるケースが多々見られます。

したがって、フロントオフィス業務と比較するとモチベーションを上げて仕事をすることが難しい状況になるため、会社側は評価基準を工夫する必要があります。

例えば、「半年間で請求書作成業務に費やす時間を○時間削減する」「処理ミスによるクレーム件数を○%減らす」など、目に見える数値を活用して目標設定をする方法が有効になります。数値はあくまでも現実的な内容に設定し、社員に「努力すれば達成可能だ」と感じさせることがポイントです。目標設定後は、実際の達成率に加え、取り組む姿勢や協調性なども評価に取り入れることで、社員もより真摯に取り組むようになります。

正しい評価制度の導入は、バックオフィス業務のレベルアップに加え、業務効率化やコストカットなど、さまざまなメリットが付随しますので、一度検討してみてはいかがでしょうか。

議事録作成ソフト「tl;dv meeting recorder」

新型コロナウイルス感染症が蔓延したことで広まった新たな習慣に「オンライン会議」があります。これまでは社員が日時を合わせて一堂に会して行っていた会議に、場所にこだわらずどこからでもリアルタイムで参加できるようになりました。

このようなオンライン会議の際に便利なシステムとして昨今注目をされているのが「tl;dv meeting recorder」のような議事録作成ソフトです。

議事録とは、会議で話し合った内容や取り決めた内容を備忘録として記録し、後ほど関係者の間で共有するものです。会議を実施する際に、議事録係を定めている会社も少なくありませんが、担当者は議事録を作成することに集中してしまい、会議に集中できないという懸念点もあります。また、会議とは関係しない者に議事録の作成を依頼する方法も、その都度マンパワーを要することになり、効率が良いとは言えないでしょう。

このような状況で実力を発揮するのが、議事録作成ソフトです。今回紹介する「tl;dv meeting recorder」の場合は、ZoomやGoogle Meetで利用できます。あらかじめ公式サイトからソフトをダウンロードしておくことで、会議中に交わされた会話内容が自動的に文字化されます。会議出席者は、議事録に加えメモを取る必要がなくなり、会議に集中することができます。また、重要な内容については後ほど繰り返し確認することができるため、会議後のフォローアップが容易にできるようになるというメリットも挙げられます。ただし、注意しなければならないのが、特に社外の人間も交えた会議の場合です。断りなく議事録作成ソフトを使って会議内容を文字化した際に、個人情報やプライバシー保護の観点から問題になる可能性があるため、あらかじめ伝える等の配慮が必要になるでしょう。

活用してみては？「コーヒーナップ」

「コーヒーナップ」という言葉をご存知でしょうか？

コーヒーナップとは、午後からの仕事の作業効率を上げるために昼の時間帯にコーヒーなどを飲んでカフェインを摂取し、その後一定時間の仮眠を取る、という取り組みのことです。

仕事中、特に昼食後に眠気を覚え、コーヒーを飲むサラリーマンが非常に多くみられます。コーヒーに含まれるカフェインには覚醒作用がありますが、この作用は摂取後30分以降に効果を発揮すると言われています。

このカフェインの効能を利用した取り組みが「コーヒーナップ」です。昼寝をする直前にコーヒーを飲み、その後15分から20分ほどの仮眠を取ることで目覚めがスッキリし、午後の仕事のパフォーマンスを高める効果があると言われています。

デフリンピック

世界的なスポーツの祭典には「オリンピック」や「パラリンピック」などがありますが、昨今では「デフリンピック」が注目されています。

デフリンピックは、ろう者（耳が聴こえない者）のためのオリンピックです。オリンピックなどと同じように、4年に1回の割合で、夏季大会・冬季大会が開催されます。競技種目は、夏はテニスやバスケットボール、サッカー、柔道、空手、水泳など、冬はスキーやスノーボード、カーリング、アイスホッケーなどオリンピックと同じような種目が並びます。そして、審判の合図は“旗”や“フラッシュランプ”を用いるなど、耳が聴こえない人向けの工夫がなされています。

2025年11月、デフリンピックの夏季大会が東京で開催されることになりました。日本で初のデフリンピック開催ということもあり、今後ますます注目されることが予想されています。